

第38回国民体育大会秋季大会

ホッケー競技会概要



第38回国民体育大会月夜野町実行委員会

第 38 回国民体育大会秋季大会 ホッケー競技会概要

(第 38 回国民体育大会月夜野町実行委員会)

1 開催にあたっての基本方針

第 38 回国民体育大会は、テーマを「あかぎ国体」とし「風に向かって走ろう」をスローガンにかかげ、188 万県民の総力を結集して開催される。

そこで、県民総スポーツの輪をさらに広げて、県民の強い意志と持続性を養い、この国体を契機に 21 世紀に向け、人間尊重を基盤とした。たくましい体力と活力に満ち健康で明るい町民生活の樹立と文化の香り高い強度づくりをめざすものとする。

2 開催準備と経過

(1) 昭和 53 年度

昭和 53 年 12 月 16 日月夜野町定例議会において、第 38 回国民体育大会秋季大会ホッケー競技会を月夜野町において開催することを全会一致で決議した。

昭和 54 年 2 月 16 日中央競技団体及び県より正規視察に来庁、中央より日本ホッケー協会浜岡晋専務理事、県より山宮国体準備室長外 4 名が主会場、練習会場を視察した。

(2) 昭和 54 年度

昭和 54 年 4 月 1 日より教育委員会に国体担当職員が配属された。

県および競技団体の指導を受け乍ら準備を進める。

(3) 昭和 55 年度

昭和 55 年 4 月 1 日付で月夜野町国体準備室に専任 1 名、兼任 2 名が設置され準備の第一歩を踏み出す。

同年 7 月 23 日第 38 回国民体育大会月夜野町実行委員会が設立され、常任委員、専門委員会 8 つの部が設けられ町民一体となって開催すべく体制が確立した。なお同時に町民の意識の高揚と国体を成功させるべく月夜野町民運動推進協議会も発足した。

(4) 昭和 56 年度

昭和 56 年 4 月 1 日準備室も月夜野町国体事務室と名称が変わり室長外 2 名の専任職員が配属され、具体的な取り組みに入る。

同年 5 月 13 日翌年に控えたりハーサル大会に出場する為、月夜野町役場職員で構成する実業団ホッケーチームが結成され、8 月島根県で開催された「くびき国体」のリハーサル大会に出場した。

(5) 昭和 57 年

昭和 57 年 8 月 20 日～23 日まで 4 日間リハーサル大会として、第 24 回全日本男子実業団ホッケー選手権大会を月夜野町ホッケー場にて開催し、本大会に備え経験を踏んだ、参加チーム 27 チーム、選手、監督、視察員等約 800 名を迎え成功裡に終了することが出来た。

この年 4 月 1 日付で専任職員が 1 名、競技団体の推せんで第一中学校の先生が週 2 日と云う事で増員され事務室の強化を図った。

(6) 昭和 58 年度 (国体開催年)

実施本部体制を確立し、町役場職員は勿論農協職員、隣接の新治村役場職員の協力を得て、町民総参加で準備運営に万全を期した。

来町された選手・監督・視察員等 1,200 名、5 日間を通し約 15,000 人の観客が来場され、特に地元少年男子利根商チームが最終日まで激戦を展開健闘し大成功裡に大会が終了した。

3 実施本部

月夜野町で開催される国体ホッケー競技運営の万全を期し、その実施体制を確立する為、実施本部 (昭和 58 年 7 月 1 日～昭和 58 年 11 月 30 日) を設置した。

組織は、本部長に助役、副本部長に収入役、教育長、以

下8つの部を設け競技会運営にあたった。

4 広報・町民運動

(1) 広報

国体の意義を理解し、町民総参加による町民運動として展開し、この運動の実施を町民及び諸団体が相互に協調し、連帯を深め乍ら豊かな心を育て、心のふれあう住みよい町づくりをめざすとともに、町民福祉の向上と町の発展を図るため次の様な広報業務を行った。

- ア、ステッカーの配付（国体協力の家）
- イ、町広報誌による広報及び特集号の発行
- ウ、国体PR塔及び看板、横断幕を設置（駅前沿道）
- エ、国体PR用家庭ゴミ袋の配付
- オ、町内小中学校児童、生徒からポスターの募集と展示
- カ、大会記録写真の速報展示

(2) 町民運動

町民運動が将来にわたり、継続して推進され、月夜野町の社会生活の中に定着することを図り、昭和55年3月30日に「あかぎ国体月夜野町民運動推進協議会」を設立し、次の様な基本目標を定め活発な運動を展開し、大きな成果をあげている。

- ア、健康でたくましい体をつくろう。
- イ、さわやかなこころのふれあいを育てよう。
- ウ、明るく住みよい郷土を築こう。

5 宿泊・輸送

(1) 宿泊

既設の宿泊施設では不足することで、隣接の新治村の好意的な協力により、上牧温泉、湯宿温泉、猿ヶ京温泉、町営施設19軒を利用し、最大宿泊人員742名、延3,725名を配宿した。

又、各チーム毎に1名の宿舍連絡係が置かれ、宿舍並びに宿泊者との心のふれあいの場がもたれ、宿泊者と、多くの友情が結ばれ、感謝のこと

ばが贈られたのはこのうえない喜びであった。

(2) 輸送

競技会参加者の交通輸送を円滑に図るため、関係機関と緊密な連携を図り、協力体制を確立し実施した。

ア、到着輸送

指定駅に下車した選手団等を宿舍まで輸送した。ただし、町内上牧駅下車の選手団は徒歩とした。

イ、監督主将会議輸送

会議出席者を、指定乗車地または宿舍から会議会場まで往復輸送した。

ウ、期間中輸送

- ・開会式に参加する選手団を、指定乗車地から開始式場まで輸送した。
- ・競技期間の選手団等を指定乗車地から競技場及び練習会場へ計画輸送した。
- ・競技期間中、競技応援の町内児童生徒を町有マイクロバスにて輸送した。

6 案内・接伴・売店

(1) 案内・接伴

大会関係者及び一般観覧車に真心のこもった親切な接待を行うため、競技会場、駅前に接待所、案内所を設置し、婦人会、若妻会、青年団の協力を得て実施した。

(2) 売店

大会参加者等に便宜を与え、併せて広く郷土の物産を紹介することを目的として、競技会場の区域内に月夜野町商工会に出店者の選定及び管理を委託し出店した。

7 医事衛生・消防警備

(1) 医事衛生

競技会場に救護所を設置し、医師、看護婦及び町役場の保健婦、学校の養護教諭を配置し救護に

備える一方、宿舎等での救急疾病患者の発生に対応するため、利根沼田医師会の協力を得て、夜間救護の体制を確立し万全を図った。

(2) 消防警備

大会参加者の安全を確保するため、月夜野町消防団内に国体消防警備本部を設置し、警備は保安警備部におき、利根沼田広域消防西分署の協力を得て、実施した。火災その他の災害を未然に防止するとともに非常の際における措置を目的として、火災の予防、警戒及び防ぎよ、競技会場及び沿道の消防警備、宿泊施設の査察指導、行啓の特別消防警備に重点をおいた。

8 施 設

昭和 53 年に緑地広場建設工事が行われ、56 年に国体のための一部造成工事が実施された。監督主将会議場、雨天開始式場、選手更衣室に使用した社会体育館は、昭和 56 年に完成した。

仮設施設は、中央競技団体と十分協議検討をしてテント、仮設便所、プレハブ、防球ネット等を設置した。

又、一般観覧者の収容人員増加をはかるため 500 名収容の仮設スタンドを設置した。

9 競技・式典

(1) 競 技

ア、57 年にリハーサル大会を実施し、競技役員、競技会係員、競技補助員、競技会補助員、協力員等に総合的な業務分担を理解させ、又、各係別、全体の講習会を開き綿密な打合せを行ったので本大会では極めてスムーズは連携のもとに競技会運営が行われた。

イ、期 日：昭和 58 年 10 月 16 日(日)～20 日(木)

ウ、場 所：月夜野町ホッケー場

エ、参加人員

種 別	監督	選手	参加都道府県数	小計	合計
成年男子	1	13	10	140	580 人
成年女子	1	14	10	150	
少年男子	1	13	10	140	
少年女子	1	14	10	150	

(2) 式 典

開始式や表彰式を彩るブラスバンドは、利根商業高等学校生徒 25 名、第一中学校生徒 27 名、計 52 名で編成され、日頃の練習成果を十分発揮した。

また集団演技については、古馬牧、桃野、北小学校の先生方の創作によるホッケーのステイックを使用したマスゲームが 6 年生全員 174 名により演技され、更に利根商業高等学校教諭創作のフォークダンスが同行女子生徒 185 名により演技され大会に花を添え関係者から好評を得た。

10 炬火リレー

大会にさきがけ、町民全体に国体ムードを盛り上げた、大会旗、炬火リレーは、水上町より「赤城の火」を引継ぎ、沿道につめかけた町民の温かい声援を受け乍ら 13.4Km 7 区間を月夜野中学校、第一中学校、利根商業高校の生徒 70 名によってリレーされ沼田市へと引継がれた。

11 大会を顧みて

188 万県民の注目をあびた「あかぎ国体」をテーマに「風に向かって走ろう」をスローガンにかかげた、第 38 回国民体育大会も史上最高の競技種目と最多得点を獲得して大成功裡に終了した。

本町も「水と緑とロマンの里」をキャッチフレーズにホッケー競技を開催し、町民一人一

人の努力の結果が本大会を成功裡に導いたものと確信する。

健康でたくましい体、さわやかな心のふれあい、明るく住みよい町づくりを目指した、町

民運動は、国体終了後も永く町民運動として継続して行くとともに、ホッケー競技のより一層の普及と発展に尽して行きたい。

ホッケー競技会成績表

◆ 成年男子

埼玉 1	7	3	1	4	6 富山
徳島 2	0	0	1	0	7 岐阜
青森 3	0	6	2	3	8 鹿児島
広島 4	3	3	5	0	9 北海道
群馬 5	4	3	1	8	10 奈良

③ 17日 A10:00
① 16日 A14:30
⑤ 17日 A14:30
⑧ 18日 B14:35
⑨ 決勝戦 19日 A14:00
⑩ 三位決定戦 19日 B14:05
⑦ 18日 A14:30
② 16日 B14:35
④ 17日 B10:05

◇ 成年女子

岐阜 1	5	7	1	7	6 栃木
岩手 2	0	0	2	0	7 群馬
愛媛 3	0	2	2	0	8 北海道
富山 4	4	4	1	8	9 大阪
島根 5	1	0	1	0	10 鹿児島

③ 17日 A8:30
① 16日 A13:00
⑤ 17日 A13:00
⑧ 18日 B13:05
⑨ 決勝戦 19日 A12:30
⑩ 三位決定戦 19日 B12:35
⑦ 18日 A13:00
② 16日 B13:05
④ 17日 B8:35

◆ 少年男子

岩手 1	7	1	2	0	6 広島
三重 2	0	0	2	0	7 徳島
富山 3	5	2	3	1	8 群馬
北海道 4	1	1	7	1	9 奈良
千葉 5	0	0	1	1	10 鹿児島

③ 18日 A8:30
① 16日 A10:00
⑤ 18日 A11:30
⑧ 19日 B8:35
⑨ 決勝戦 20日 A10:00
⑩ 三位決定戦 20日 B10:05
⑦ 19日 A8:30
② 16日 B10:05
④ 18日 B8:35

◇ 少年女子

大阪 1	1	0	2	0	6 群馬
愛媛 2	2	2	2	4	7 岐阜
埼玉 3	24	0	1	1	8 山口
北海道 4	0	0	2	0	9 鹿児島
富山 5	1	3	1	6	10 岩手

③ 17日 A11:30
① 16日 A11:30
⑤ 18日 A10:00
⑧ 19日 B10:05
⑨ 決勝戦 20日 A8:30
⑩ 三位決定戦 20日 B8:35
⑦ 19日 A10:00
② 16日 B11:35
④ 17日 B11:35

字句等の表現は執筆年代・執筆された状況を考慮し、当時のまま掲載しています。